

# **5.30 リッダ鬭争 46 周年集会**

**世界の人々と共に戦い続けよう**

**2018 年 5 月 27 日 (日)**

**日本キリスト教会館**

**15:30~21:00**

**主催 オリオンの会**

2018年5月14日 ナクバの日に

岡本公三

今日5月14日は、パレスチナにとって、あの「ナクバの日」です。

そして、後16日過ぎるとリッダ闘争記念日で、今回で46回目の記念日となります。

1年に1度の記念日を数えて、もう46年の月日が流れました。

日本では、昭和天皇が1988年に逝去して年号が平成となり、平成天皇も来年は退位し、来年4月1日から新しい年号に変わると言います。

日本の国会では、平成天皇退位について論議され、事を荒げることもなく来年4月からの新年号を待つばかりのようです。これにも、月日の流れを感じさせられます。

日本の安倍晋三首相についての疑惑問題が今も続いています。スッキリした解決を期待したいと思います。

その首相は、北朝鮮の拉致問題に深く関心を示し、アメリカのトランプ大統領との会談でも拉致問題に言及し、米北会談でも解決に向けた期待が強くあります。

米国と北朝鮮のトップ会談が、板門店ではなくシンガポールで、あるいは他の場所で行われるようですが、休戦協定などの実のある良い結果が出るように願っています。朝鮮半島の永久平和のために尽くしてもらいたいと思います。

日本と南朝鮮、北朝鮮、中国、それとアメリカの4か国で、解決すべき問題は沢山あります。進展を願いたいものです。

アメリカの軍事力は強大ですが、それに負けることなく今後も決意を新たにして、頑張っていきたいと思います。

## 英雄的なリッダ空港作戦の46周年記念日に

2018年5月30日に  
パレスチナ解放人民戦線 (PFLP)

三人の英雄たちがイスラエルに占領されたパレスチナの地にあるリッダ空港に突入した。  
それは、1972年5月の暖かな朝だった。

この作戦は、イスラエルが「六月戦争」の勝利を記念していた時に、占領地の要にあるリッダ空港という、シオニストたちの記念碑への国際観光拠点で、敢行された。

三人の日本人同志は、「殉教者パトリック・アルゲロ隊」を名乗り、不可分の組織的な団結の本質、そして国際的な革命勢力の同盟関係を示した。

また、彼等は、あらゆる地域で貧しい者を略奪し抑圧共働する敵部隊の面前で、国際プロレタリアの翻る旗を高く掲げて、世界の革命勢力の団結を証した。

リッダ空港を15分間にわたって制圧し、多数の敵兵と将兵を負傷させた部隊、パーシム奥平剛士、サラハ安田安之は殉教し、アハマド岡本公三は負傷しながらも銃弾を撃ち尽くして逮捕された。

この英雄的な作戦から46年経った今日、我々は、誇りと栄光と共に、彼ら殉教者を忘れはしない。彼らはオリオンの星であり、パレスチナの空に永遠に輝き続けるだろう。

彼等は、パレスチナの大義の歴史に名を刻み込んだ。パレスチナの人々は全ての英雄的な殉教者を決して忘れない。特に、地域は異なっても人々の敵と戦った幾多の社会主義者たち、PFLPが掲げて実行してきた“あらゆる場で敵を撃て！”という原則を選びとった人々を忘れはしない。

サラハ、パーシム、アハマド、我々の愛と感謝をささげる。

我々はあなたたちを忘れはしない。パレスチナの人々は貴方たちの英雄主義を決して忘れはしない。

我々の英雄たちに、栄光と不滅の名声を！